



## 米子市埋蔵文化財センターたより

第45号

2022年6月



### 伯耆町 ねうばらどてし 根雨原土手下夕遺跡 —発掘調査の開始—

当財団では、4月から伯耆町根雨原に所在する、根雨原土手下夕遺跡の発掘調査を実施しています。

遺跡は、日野川右岸の扇状地性の台地の先端部に位置し、これまでの調査で、土坑や集石遺構が検出され、縄文時代後期～晩期の土器が出土しています。なかでも土坑（SK01）からは縄文時代晩期の突帯文土器（鉢の口の部分に帯状の突帯を貼り付けたもの）がまとまって出土しています。また、集石遺構は11基検出されており、集石遺構1は平面形態が逆三角形を呈し、その上辺の中央に長形状に加工した高さ50cm、幅15cmの石柱が立てられています。これらの集石遺構の性格は不明ですが、当遺跡周辺では、縄文時代後期から晩期にかけて、人々の活動が窺えます。

この他に、調査地の浅い場所には大きな石が数多く散在しており、水田耕作を行うに当たって、石が邪魔となるため、石に楔を打ち込んで石を割っているものがあり、縄文時代以降にも土地利用がされる際の先人の苦勞が偲ばれます。

今後は、黒曜石の石鏃や石器を製作した際に生じた黒曜石の破片が出土していることから、さらに下層へと調査を進め、遺跡の様子を明らかにするために、9月末まで調査を行う予定です。

（高橋）



土坑（SK01）土器出土状況



集石遺構1（集石と立石）

## 発掘調査情報

### － 尾高城跡の本丸・二の丸の遺構確認調査 －

尾高城は大山西麓、米子平野を一望できる標高46mの丘陵先端部に築かれた中世から近世初頭の城郭です。交通の要衝に位置し、戦国時代の西伯耆攻防戦の前進基地として、毛利尼子攻防戦の激動の時代を今に伝える城です。南400m、東西200mの範囲に広がる城跡には空堀や土塁が良好に残っており、鳥取県の約500か所の城跡の中でも評価が高いことから米子市では、米子城跡築城以前の貴重な中世城郭として、国の史跡指定を目指しています。

このため、昨年度は赤色立体図という詳細な地形測量図を作成し、城跡全体の姿を明らかにしました。今年度は測量調査成果に基づき、これまで未調査の本丸・二の丸跡の遺構確認調査を行っているところです。

手つかずの遺跡から何が発見されるのか、尾高城の謎が解明されるのか、調査に期待が持てます。  
(文化振興課 濱野)



尾高城跡赤色立体図

## 整理室たより

### 日野町福長下モノ原遺跡の整理

整理室では、昨年の発掘調査で出土しました日野町福長下モノ原遺跡の「たたら遺物」の整理作業を行っています。

主な出土遺物は、製鉄炉の炉壁片と鉄滓で土器等は極わずかでした。

整理については島根県古代文化センター長の角田氏の指導を得て進めています。製鉄炉の炉壁片は、排滓場に捨てられていたもので、実測遺物として部位のわかるものや鞆穴の残るものを選び出しました。鉄滓は鉄塊系遺物、流動滓の一部を選びだしました。また分析用の鉄滓と樹種鑑定、年代測定用に木炭も選び出しました。

報告書作成へ向けて実測等の整理作業を進めていきます。

### － 製鉄炉炉壁、鉄滓の実測へ－



角田氏の整理指導風景

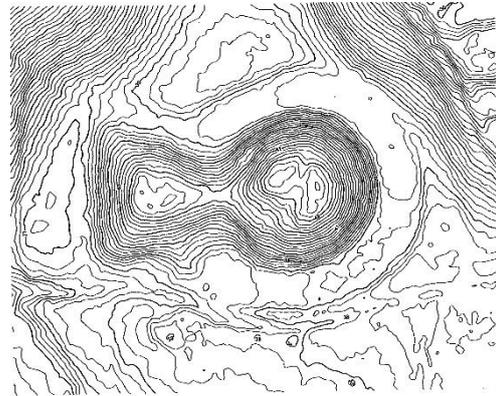
## 遺跡シリーズ 後塚山古墳 (うしろさごやまこふん)

後塚山古墳は、長者原台地の南西端の標高 40m の丘陵上に立地する諸木古墳群 4 基の内の 1 基です。発掘調査は行われていないが、古くから存在は知られており「鳥取県史跡名勝地調査報告第二冊」に梅原末治が本古墳の現況を報告しています。

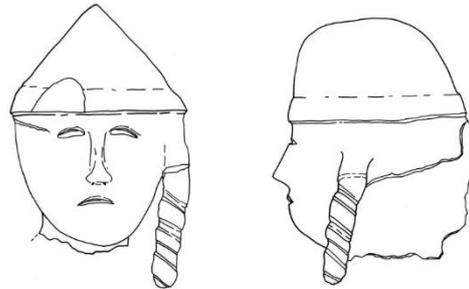
全長推定 55m、後円部径 32m、高さ 6 m 前方部幅 24m、高さ 5m を測り、西伯耆の前方後円墳中第 5 位の古墳です。周囲に幅 7 m、深さ 1 m 前後の古墳の周溝が観察される。墳丘南側くびれ部の前方部寄りに幅 3 m、長さ 4 m の造り出しが付設されています。

遺物は、後円部南側の周溝外縁の脇を通る水路の掘削時に人物埴輪の頭部が採集されています。

また、前方部から円筒埴輪片も採取されたと報告され、葺石らしきものも観察されています。遺物は、円筒埴輪と形象埴輪で、形象埴輪は人物の頭部で三角帽子状の冠をかぶり、「みずら」をたらしした男子像です。法勝川流域の首長系列の古墳時代後期前葉の前方後円墳と考えられます。(小原)



後塚山古墳墳丘図 (新鳥取県史より)



古墳出土の人物埴輪

### コラム 発掘された遺物⑤

縄文時代晩期は、3 千年前から 2 千 4 百年前と考えられています。

山陰の晩期の土器は、沈線文と凸帯文を特色とする文様を主体とします。

晩期前葉は平行沈線の山形文や連弧文が描かれ、晩期中葉の土器は装飾性がなくなり、口縁に刻み目を施します。また黒色研磨の土器がみられます。晩期後葉の土器は凸帯文を主体としたものとなります。凸帯には刻み目を施すものと、施さないものがあります。器形は砲弾形の丸底の深鉢や浅鉢を呈するものが多いです。(小原)

### — 縄文時代晩期の土器 —



河原田遺跡出土



井手勝遺跡出土

## センター・資料館日誌

- 4月15日（金）鳥取県文化財課高尾係長が百塚88号墳剥取資料視察で来館。
- 4月21日（木）根雨原土手下タ遺跡の発掘調査を開始。
- 4月28日（木）島根県立古代出雲歴史博物館の益田学芸員が埴輪資料の調査で来館。
- 5月10日（火）五千石小学校遠足で見学のため福市考古資料館臨時開館。
- 5月11日（水）日下人骨資料の返却で国立博物館篠田館長ほか来館し調査の中間成果を説明された。



- 5月12日（木）たたら遺物の整理指導で島根県古代文化センター角田センター一長来館。
- 5月22日（日）史跡ガイドウォーク1「尾高城跡」を開催した。



- 5月23日（月）八雲立つ風土記の丘資料館の斉藤学芸員が鉄器調査で来館。
- 5月24日（火）島根県古代文化センター東森

主任ほかが埴輪調査で来館。

- 5月31日（火）米子市文化財保存活用地域計画委員会が開催された。
- 6月1日（水）福市企画展「土器の文様」展が開始された。
- 古代出雲歴史博物館学芸員が借用遺物の返却で来館された。
- 6月4日（土）上淀廃寺で彼岸花球根植栽会が開催された。



児童発達支援「えにし」へ勾玉作りの出前講座を行った。

- 6月14日（火）15日（水）鳥取市の久保氏が縄文土器の調査で来館された。

## 編集後記

職員は暑さにも負けずに根雨原土手下タ遺跡の発掘調査を行っています。

コロナウイルス拡散が少し収まりつつありますが、ウクライナでの戦争は収まりそうにありません。一日も早く戦争が収まるよう祈っています。

発行日 令和4年6月29日

発行者 米子市埋蔵文化財センター

指定管理者（一財）米子市文化財団

電話 0859-26-0455

Eメール yonagomaibun@clear.ocn.ne.jp